西会津中学校　学校だより

雄　飛

令和４年１月２８日第１１号
発行者　校長　佐藤　崇史

【教育目標】
未来の可能性を創造していく生徒

自主　自律　敬愛　健康

新しい年を良い年にするのは　～未来を変えるのは誰～

２０２２年も早いもので１か月が経とうとしています。改めまして今年もよろしくお願いいたします。

新しい年のスタートにあたる３学期の始業式では、今年の干支の話をしました。今年の干支は「壬寅（みずのえとら）」。「壬寅」は、冬が厳しければ厳しいほど、春の陽気に包まれた発芽は力強く、新しい生命の誕生を予感させてくれる年といわれます。コロナ禍での生活の苦しさから、今までとは違う新しい生活の１年を期待できるといえるかもしれません。良い年になりそうだともいえます。

良い年になりそうと「運任せ」にするのではなく、新しい年を良い年にするのは自分自身だと生徒たちには話しましたが、あるテレビ番組で「運を良くすること」が大事という言葉を耳にしました。運を良くするなんてできるのだろうかと感じる人もいるかと思いますが、そのことに関連して思い出すのが大谷翔平選手です。

昨年、二刀流としてメジャーの常識を覆し、満票でＭＶＰに輝いたエンゼルスの大谷翔平選手が、ここまでの「怪物」となったのには、花巻東高校時代の佐々木監督からの教えにより、高校１年生の時につくった「目標達成シート（マンダラチャート）」が非常に重要な役割を果たしたと言われています。

大谷選手は、９×９の８１マスのシートの真ん中に、自分の成し遂げたいこととして「８球団からドラフト１位指名」と記入し、そのために必要な８つの要素を設定しました。それらの要素は一般的に「技」に偏ったものになりがちですが、大谷選手は、６番目の要素に「運」を入れています。大谷選手は「運を良くすること」を自らの目標にしているのです。

「運」とは、「長期的にプラスの結果を生み出す力」であると言う人がいます。その力を生み出すためには、メンタルや周囲の助力といった無形のものが大切になります。メンタルについては、大谷選手は「成功した時」「失敗した時」の心の状態ややり方などを毎日自己分析し、日誌に記録することにより、成功した時の自分の思考や行動を把握して、意図的にうまくいった状態に自らを持っていき、成功の確率を上げていたそうです。だから、「運」が強いと思われているのです。

周囲の助力については、「自分」の他に「他者」という視点を持てるかを大切にしています。自分のことばかりではなく、大谷選手はホームラン競争で得た賞金を球団スタッフに分配したり、さり気なく球場のゴミを拾ったり、相手打者のバットを拾ったり、通訳の水原さんを「最も支えてくれる人」と評したりしています。こうした姿勢が信頼を勝ち取り、パフォーマンスを上げるための味方をつくっているのです。

つまり、大谷選手の輝かしい成績と運の強さは、決して「運任せ」で良い方向に向かったのではなく、適切な目標設定と自己分析、そして自分以外の人を大切にすることから生まれているといえそうです。

私たちはたしかに、思いがけないものや計り知れないものと出会うことがあります。でも、そういった運は私たちにコントロールできないことであり、その思いがけないことにすべてを任せて生活しているわけではありません。自分の力で長期的にプラスの結果を生み出せるよう、目標をしっかりもち、自分を見つめ、他者を大切にすることが必要なのです。そういう努力をすることが、自己肯定感や自信を高め、結果として目の前の出来事を肯定的に捉え、運が良かったと感じることにつながるではないでしょうか。

やはり、未来を変えるのは自分自身。今年を良い年にするのも自分自身の努力次第です。

デジタル・シティズンシップ教育～ICT の善き使い手として～

１月１１日の始業式の日に、町主催の研修会で「デジタル・シティズンシップ教育」についての講演が開かれ、小中学校教職員全員が学びました。国際大学グローバル・コミュニケーション・センター主幹研究員／準教授の豊福晋平先生からのお話は、とても刺激的で学びの多い時間でした。そして、ぜひ保護者の皆様と共有したいと思う内容でした。

西会津町ではＩＣＴ活用の環境が充実しており、小中学生に１人一台のタブレット端末が貸与されています。スマホやタブレットを日常的に使う現代社会において、安全に、責任をもって、互いを尊重する使い方を身につけることが重要です。そして、そのためには、学習道具として日常的に使うことが必要になります。

子どもたちが、テクノロジーの善き使い手になるために必要なことを身に付けていけるように、これからも教職員全員で学び続けます。

新型コロナウイルス感染症対策の徹底

福島県全域にまん延防止等重点措置が適用されました。感染対策としては、何よりも、「マスクの着用」「手洗い・うがい」「こまめな換気」が大事です。その上で、小・中・高等学校には、感染リスクの高い学習活動（部活動での実施を含む）や宿泊を伴う学校行事等の停止、他校との合同練習や練習試合の停止など、感染拡大防止対策を徹底するように県から指示がありました。

部活動をはじめとした学校での活動について、「近距離」で「長時間」の活動にならないように、感染対策を徹底してまいります。

※　なお、現在、子どもの感染や家庭内での感染が増えてきているとの報道もあります。

ご家庭においては、体温測定や体調の確認などを毎日実施し、少しでも体調に異変がある場合には、お子さんを登校させずに、早めの受診をお願いします。

また、同居しているご家族に発熱等の風邪症状がある場合も、学校に連絡の上、感染の不安がある際にはお子さんを登校させず、早めに医師の診断を受けてくださいますようお願いします。

地元料理店コラボ給食～地元の味を～

地元の料理店の人気料理を給食で味わうことにより、生徒たちの食への関心と郷土愛を高めてもらえるよう、栄養教諭の山口郁恵先生が地元料理店とのコラボ給食を企画しました。

今回、コラボしてくださった地元料理店は、ふるさと薬膳”櫟（いちい）”さんです。

地元の味を知り、郷土の良さを知ることはもちろんですが、食べることの大切さを給食から感じてほしいと思います。

【献立】ご飯、車麩のソーツカツ、ゆでキャベツ、西会津こづゆ、リンゴゼリー、牛乳

自ら学んでいくために～学校評価から～

過日、保護者の皆様に、学校評価に関するアンケートを実施いたしました。詳細な結果につきましては、学年末保護者会等の際にご報告させていただきますが、本校の教育活動にご理解とご協力をいただいていることに感謝申し上げます。課題となりますところについては、今後の教育活動に生かしてまいります。ありがとうございました。

学校評価に関するアンケートについては、生徒にも同様のものを実施しておりますが、「家庭学習の習慣」については、目標値に達しておらず、大きな課題であると感じます。

学習意欲を高めるために、将来の目標や夢をもつことがもちろん大事なのですが、まずは「とにかくやる」ということも必要だと思います。テレビドラマの「ドラゴン桜」では「歯磨きするように勉強する」というセリフがありました。学習することを習慣にするということです。人が学んでいくためには、ある程度の知識が必要です。そして、知識を得るとそれ以上に知りたいと考えます。習慣として勉強し、わかることが増えてくれば学ぶことが楽しくなるはずです。

家庭学習を習慣にできるように、ＩＣＴを今以上に活用したいです。自ら学んでいく道具として、習慣となるまでどんどん活用していくことができるように、宿題等の家庭学習と授業との連動を工夫していきたいと思います。できることが増えると見える景色が変わります。山頂まで達しなければ尾根筋は望めないものです。まずは勉強量を確保して、家庭学習を習慣にします。習慣になれば苦もなく取り組めます。歯磨きを苦にする人がいないように。

令和３年度　学校評価結果

評価の観点			目標値	生徒		
				３年	２年	１年
キャリアプランニング能力	⑯	家庭学習の習慣	3.1	2.6	2.8	2.9

学年末授業参観、PTA 総会、保護者会について

２月２２日（火）の学年末授業参観、PTA 総会、保護者会につきましては、現在のところ実施する予定ですが、今後、まん延防止等重点措置が延期されるなどの新型コロナウイルス感染症の感染状況によって内容を変更して行いますので、ご理解ください。

【まん延防止等重点措置の期間が延期された場合】

〇授業参観・・・オンラインによる授業参観
〇PTA 総会・・・集まらずに書面開催
〇保護者会・・・午後に学年ごとに実施

２月の予定

１日（火）	３年実力テスト
２日（水）	熟読タイム１０
３日（木）	ＰＴＡ役員選考会
１０日（木）	生徒会総会議案書審議
１１日（金）	建国記念日
１４日（月）	ＰＴＡ会計監査
１５日（火）	新入生説明会
１６日（水）	３年卒業生講話
１８日（金）	第２回生徒会総会
２２日（火）	学年末授業参観 ＰＴＡ総会・保護者会
２３日（水）	天皇誕生日